

## 「第 87 回東京都新型コロナウイルス感染症モニタリング会議」

令和 4 年 5 月 12 日（木）13 時 00 分  
都庁第一本庁舎 7 階 特別会議室（庁議室）

### 【危機管理監】

それでは、第 87 回東京都新型コロナウイルス感染症モニタリング会議を始めます。

本日も感染症の専門家の先生方にご参加をいただいております。

東京都新型コロナウイルス感染症医療体制戦略ボードメンバーで、東京都医師会副会長の猪口先生。国立国際医療研究センター国際感染症センター長の大曲先生。東京 iCDC 専門家ボードからは、座長の賀来先生。東京都医学総合研究所社会健康医学研究センター長の西田先生。そして、医療体制戦略監の上田先生にご出席をいただいております。よろしくお願いたします。

また、武市副知事、他 9 名の方につきましては Web での参加となっております。

それでは早速ですが、「感染状況・医療提供体制の分析」のうち「感染状況」について、大曲先生お願いたします。

### 【大曲先生】

はい。ご報告をいたします。

感染状況であります。色は上から 2 番目の「オレンジ」としております。「感染状況は拡大傾向にないが、警戒が必要である」といたしました。

新規の陽性者数の 7 日間平均を見ますと横ばいでした。今週の新規陽性者数ありますが、ゴールデンウィーク期間中の休診による検査数の減少、そして検査報告の遅延等の影響を受けた数値となっております。ですので、この報告数の評価には注意が必要でございます。

それでは、詳細についてご報告をいたします。

まずは、①新規陽性者数であります。

この 7 日間平均を見ていきますと、前回の 1 日当たり約 3,344 人から、今回は 1 日当たり約 3,580 人でありまして、横ばいでございます。増加比は約 107% ございました。

このように、7 日間平均は、5 月 11 日の時点で、1 日当たり約 3,580 人、増加比は前回が約 66% だったものが、今回は 107% でありまして、100% を上回っております。今週の新規陽性者数ありますが、ゴールデンウィーク期間中の休診による検査数の減少、そして検査報告の遅延等の影響を受けた数値となっております。ですので、報告数の評価、変動には注意が必要でございます。

ワクチンであります。5 月 10 日の時点で、東京都の 3 回目のワクチンの接種状況は、

全人口では 54.6%、12 歳以上では 60.2%、65 歳以上では 86.2%でございます。

ワクチンの接種による重症化の予防、そして死亡率低下の効果は、オミクロン株に対しても期待ができます。また、ワクチンの接種者においては、症状が遷延するリスクが低いとの報告もございます。幅広い世代に対して、3 回目のワクチンの追加接種を強力に推進する必要がございます。

また、子供さんですが、都内でも 5 歳～11 歳のワクチンの接種を実施をしております。小児においても、中等症あるいは重症例が確認されています。特に基礎疾患を有する等、重症化するリスクが高い小児には、接種の機会を提供することが望ましいとされております。

感染の機会をあらゆる場面で減らすとともに、換気を励行して、密閉・密集・密接、いわゆる 3 密の回避、人と人との距離の確保、不織布マスクを隙間なく正しく着用すること、手洗いなどの手指衛生、そして環境の清拭・消毒、そしてワクチン接種後も基本的な感染防止対策を徹底することが必要でございます。

次、①-2 に移って参ります。

年代別の構成比でございますが、直近では、新規の陽性者に占める割合は 20 代が 22.5%と最も高く、次いで 30 代が 18.9%であります。10 代以下の割合に関して低下はしておりますが、30 代までの若年層の割合は、依然として高い値で推移をしております。これまでの感染状況では、若年層に感染が広がって、その後に中高年層に波及しております。引き続き警戒が必要であります。また、一方で保育園・幼稚園、学校生活及び職場での感染防止対策の徹底が求められます。

次、①-3 に移って参ります。高齢者でございます。

新規陽性者に占める 65 歳以上の高齢者数であります。前週の 1,581 人から今週は 1,415 人となっております。その割合は 6.4%であります。

この新規陽性者数の 7 日間平均でございますが、前回は 1 日当たり約 202 人、今回は 1 日当たり約 218 人です。横ばいございました。

この 7 日間平均は未だ高い値で推移をしております。今後の動向に注意が必要であります。

また、医療機関での入院患者さん、そして高齢者施設等における入所者の方々も、基本的な感染防止対策を徹底、そして継続する必要がございます。

次、①-5 に移って参ります。

感染経路が明らかだった新規陽性者の方々の感染経路別の割合でございます。同居する人からの感染が 76.1%と最も多いという状況でございました。次いで、施設及び通所介護の施設での感染が 11.0%、職場での感染が 3.7%でございました。

また、今週も高齢者施設、教育施設、そして職場での感染例が多数見られております。1 月 3 日から 5 月 1 日までに、都に報告があった新規の集団発生事例であります。福祉施設が 1,733 件、学校と教育施設が 668 件、医療機関は 168 件でございました。直近のトレンドはグラフにお示した通りでございます。

感染者を早期に発見をして、感染の拡大、集団感染を予防するために、高齢者施設、そして障害者施設、保育所そして小学校等の職員を対象に実施している集中的、そして定期的な検査、これを活用していく必要がございます。

また、今週、会食による感染が明らかだった新規陽性者数であります。195人でありました。会食は換気のよい環境で、できる限り短時間、少人数として、会話時はマスクを着用することを、繰り返し啓発する必要がございます。

また、高齢者施設や医療機関等においては、施設内での集団発生も、先ほどお示したように未だ確認されております。職員の就業制限等による社会機能の低下が危惧されます。また、保育園・幼稚園そして小学校等でも、依然として施設内での感染が報告されております。保護者が欠勤せざるを得ないことも、これも社会機能に大きな影響を与えております。

施設の対応ですけれども、高齢者入所施設等の感染制御及び業務支援体制の強化を図る必要がございます。都では、施設を対象とした専用相談窓口を新たに設置をして、相談に幅広く対応するとともに、施設からの要請に応じて、即応支援チームが24時間以内に現地を訪問する等、支援体制を整備をして、高齢者の施設に周知をしております。

また、職場に関しては、職場での感染を防止するために、事業者は、従業員が体調不良の場合に、受診や休暇の取得を積極的に勧めるとともに、テレワーク、オンライン会議、時差通勤の推進、そして3密を回避する環境整備等の推進と、基本的な感染防止対策を徹底することが引き続き求められます。

次、①-6に移って参ります。

今週の新規陽性者22,217人のうち、無症状の方は1,587人、割合は前週が6.9%、今回は7.1%でございました。

このように、今週も症状が出てから検査を受けて、そして陽性と判明した方の割合が高かったという状況でございます。

次、①-7に移って参ります。

保健所別の届出数を見て参ります。多い順に見ますと、世田谷が1,855人と最も多く、次いで多摩府中が1,382人、台東が1,218人、新宿区が1,135人、足立が1,100人でございました。

保健所では、オミクロン株の特性を踏まえて、濃厚接触者の特定、積極的疫学調査を効果的、そして効率的に実施をしていく必要がございます。

①-8に移って参ります。

地図で見て参ります。今週は都内の保健所のうち、約16%にあたる5の保健所で、それぞれ1,000人を超える新規の陽性者数が報告されております。色で分けてございますけれども、多少濃淡が出てきております。

①-9に移ります。

こちらは人口10万人当たりでならしてみたものになりますが、こちらで見ますと、紫一色という状況でございます。

次、②に移って参ります。

#7119における発熱等の相談件数でございます。この7日間平均でございますが、前回は1日当たり72.4件、今回は1日当たり72.7件であります、横ばいございました。

また、都の発熱相談センターにおける相談件数の7日間平均でございますが、前回は1日当たり約2,021件、今回は1日当たり約2,347件ということで、増加をしております。

このように、発熱等相談件数の7日間平均は高い値で推移をしております。

③です。新規陽性者における接触歴等不明者数と増加比でございます。

まず不明者数であります、7日間平均で、前回は1日当たり約2,098人、今回は1日当たり約2,364人と、これは増加をしております。

この数の合計であります、14,290人です。年代別の人数を見ますと、20代が4,052人と最も多く、次いで10代以下が3,105人、30代が2,791人の順でございます。

このように、接触歴等不明者数は、依然として高い値で推移をしております。

③-2に移って参ります。

接触歴等不明者数の増加比でございます。5月11日の時点での増加比は、前回は約66%、今回は約113%でありまして、100%を上回っております。

ただ、今週の新規陽性者数は、ゴールデンウィーク期間中の休診による検査数の減少、そして検査の報告の遅延、これらの影響を受けております。報告数の評価には注意が必要でございます。

③-3に移って参ります。

今週の新規陽性者に対する接触歴等不明者の割合でございますが、前週が約63%、今回は約64%ございました。割合でございますが、20代が前週に続いて、約81%と高い値となっております。

80代以上を除くすべての世代で、接触歴等不明者の割合が50%を超えております。特に20代を見ますと約81%と、行動が活発な世代で高いという状況になっております。

私からは以上でございます。

#### 【危機管理監】

ありがとうございました。

続いて「医療提供体制」について、猪口先生お願いいたします。

#### 【猪口先生】

はい。医療提供体制について報告いたします。

総括コメントの色は「オレンジ」、「通常の医療が制限されている状況である」。

東京ルールの適用件数は、引き続き高い水準で推移している。今週、新たに入院した患者数及び入院患者数は減少傾向にあり、通常医療との両立を目指して、病床を柔軟に活用する必要があり、といたしました。

では、詳細コメントに移ります。

まずですね、オミクロン株の特性に対応した医療提供体制の分析について報告します。

オミクロン株の特性を踏まえた重症者用病床使用率は、5月4日の時点の4.0%から、5月11日時点で4.2%と横ばいでありました。

入院患者のうち酸素投与が必要な方の割合は、24.9%から24.3%と横ばいでした。

新型コロナウイルス感染症のために確保した病床使用率は16.8%から15.4%となりました。

救命救急センター内の重症者用病床使用率は、71.8%から71.4%となっております。

救急医療の東京ルールの適用件数については、93.3件と引き続き高い水準で推移しております。

それでは、④検査の陽性率です。

7日間平均のPCR検査等の陽性率は、前回の20.7%から20.3%となりました。また、7日間平均のPCR検査等の人数は、約8,583人から約10,559人に増加しております。

陽性率は高い値で推移しております。無症状や軽症で検査未実施の感染者が多数潜在している状況が危惧されます。都では、無症状の都民の方を対象とした無料検査を5月22日まで延長して実施しております。

それでは、⑤救急医療の東京ルールの適用件数です。

東京ルールの適用件数の7日間平均は前回の89.3件から93.3件となりました。

東京ルールの適用件数は、引き続き高い水準で推移しており、救急医療体制に未だ影響が残っております。

救急車が患者を搬送するための現場到着から病院到着までの活動時間は、短縮傾向ではありますがありますが、新型コロナウイルス感染症流行前の水準と比べると、依然延伸したまま推移しております。

⑥入院患者数です。

入院患者数は前回の1,235人から1,146人とわずかに減少いたしました。

都は、病床確保レベル3、7,229床を各医療機関に要請しており、5月12日時点での確保病床数は6,538床であります。

新たに入院した患者は、前週の700人から580人に減少いたしました。また、入院率は2.6%でありました。

陽性者以外にも、個室での管理等が必要な疑い患者について、都内全域で約131人を受け入れております。

今週新たに入院した患者数及び入院患者数は減少傾向にあり、通常医療との両立を目指して、病床を柔軟に活用する必要があります。

新型コロナウイルス感染症のために確保した病床の使用率は、5月11日時点で15.4%となっております。

入院調整本部への調整依頼件数は、5月11日時点で44件となっておりますが、透析、介

護を必要とする者や、妊婦等、入院調整が難航する事例も引き続き発生しております。

⑥-2です。

入院患者の年代別割合は80代が最も多く、全体の約27%を占め、次いで70代が約20%でありました。

60代以上の割合は、約70%と引き続き高い値のまま推移しており、医療機関では多くの人手を要しております。

⑥-3です。

検査陽性者の全療養者数は、前回の64,718人から48,404人に減少いたしました。内訳は、入院患者が1,146人、宿泊療養者が2,100人、自宅療養者は23,791人から20,678人、入院・療養等調整中は37,953人から、24,480人となっております。

全療養者数は、前回と比べ減少し、全療養者に占める入院患者の割合は約2%、宿泊療養者の割合は約4%でありました。自宅療養者と入院・療養等調整中の感染者が約94%と大多数を占めております。

重症患者数です。

重症患者数は前回の10人から、5月11日時点で8人に減少しております。また、重症患者のうちECMOを使用している患者は1人でありました。

今週、新たに人工呼吸器を装着した患者は5人、人工呼吸器から離脱した患者は5人、人工呼吸器使用中に死亡した患者はいらっしゃいませんでした。

5月11日時点で、重症患者に準ずる患者は59人です。

たとえ肺炎は軽症であっても、併存する他の疾患のために集中治療を要する患者が存在しており、オミクロン株の特性を踏まえた重症者用病床使用率の推移を注視する必要があります。

救命救急センター内の重症者用病床使用率は、依然として高い水準となっております。新型コロナウイルス感染症の重症患者が減少傾向にある中、通常医療との両立を目指して病床を柔軟に活用する必要があります。

重症患者数8人の年代別内訳は、30代が1人、50代が2人、60代が4人、70代が1人です。性別では、男性が7人、女性が1人です。

今週報告された死亡者数は31人、50代が2人、60代が1人、70代が4人、80代15人、90代8人、100歳以上が1人でありました。5月11日時点で、累計の死亡者数は4,375人となっております。

年代別の人工呼吸器又はECMOを使用した患者の割合、すなわち簡略的な重症化率ですけれども、40代以下が0.01%、50代0.05%、60代0.20%、70代0.45%、80代0.47%と、高齢になるにつれて高くなっております。

高齢者というだけでなく、肥満、喫煙歴のある人は若年であっても、重症化リスクが高くあります。あらゆる年代が、感染により併存する他の疾患が悪化するリスクを有していることを啓発する必要があります。

今週、新たに人工呼吸器を装着した患者は5人であり、新規重症者数の7日間平均は0.7人から0.6人と横ばいでありました。

私の方からは以上であります。

#### 【危機管理監】

ありがとうございました。

ただいまの分析シートの内容について、ご質問等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、次に東京iCDCからの報告に移ります。

まず、「東京都内主要繁華街における滞留人口のモニタリング」について、西田先生お願いいたします。

#### 【西田先生】

はい。それではゴールデンウィーク中の夜間滞留人口の状況につきまして報告を申し上げます。

次のスライドをお願いします。

初めに分析の要点を申し上げます。

レジャー目的の夜間滞留人口は、例年と同様に、ゴールデンウィーク中に減少いたしました。前週比で17.1%の減少となっております。3年ぶりに、緊急事態宣言のないゴールデンウィークとなりましたが、新型コロナ流行前の2019年の同時期水準と比べますと、60%程度の数値にとどまっております。

ただし、夜間滞留人口に占める若年層の割合が、ゴールデンウィーク中に増加しており、3回目のワクチン接種率が比較的低い若年層における感染の拡大が懸念されます。

引き続き、基本的な感染対策を徹底していただくとともに、若年層の方々等に対して、3回目のワクチン接種をさらに推奨していくことが重要と思われれます。

それでは、詳細につきまして説明をさせていただきます。

次のスライドをお願いします。

さて今回、3年ぶりに行動制限のないゴールデンウィークとなったわけですが、都内中心部の繁華街における夜間滞留人口は、この赤いラインでお示ししている通り、例年と同様に増加することなく、減少しております。

次のスライドをお願いします。

こちらは夜間滞留人口の直近の推移を示したグラフですが、ゴールデンウィークの特に後半に入りまして、前週比で17.1%と顕著に減少し、前回の重点措置期間中の水準近くまで下がっております。

次のスライドをお願いします。

こちらは、新型コロナ流行前の2019年の滞留人口と、新型コロナ流行後の2020年以降

の滞留人口の水準を比較したグラフです。

緊急事態宣言が出されていた昨年、一昨年のゴールデンウィークと比べますと、今年のゴールデンウィークは大幅に増加しているものの、コロナ流行前の2019年の水準に比べますと、夜間滞留人口は、依然60%程度の水準にとどまっていたということがわかります。

次のスライドをお願いします。

こちらは20時～22時、22時～24時の夜間滞留人口と実効再生産数の推移を示したグラフです。

ゴールデンウィークに入ってから夜間滞留人口は減少し、実効再生産数の減少傾向も続いているように見えますが、連休中の検査数減少や報告の遅延の影響等を考慮いたしますと、今後の感染状況を慎重に注視していく必要があると思われれます。

次のスライドをお願いします。

こちらは、夜間滞留人口の世代別占有率を示したグラフですが、ゴールデンウィークに入ってから、若年層の占める割合が増加しています。特に、ハイリスクな深夜帯の滞留人口において、若年層の割合増加が目立っており、3回目のワクチン接種率が比較的低い若年層における感染の拡大が懸念されます。

次のスライドをお願いします。

こちらは、直近昨晚までの滞留人口の日別推移を示したグラフです。

先週末から新規感染者数が増加し始め、今後の感染拡大が懸念される状況ですが、昨晚あたりから再び夜間の滞留人口も増加し始めています。

引き続き、3密を回避する等、基本的な感染対策を徹底していただくとともに、若年層の方々等に対しての3回目のワクチン接種のさらなる推奨が重要と思われれます。

私の方からは以上でございます。

#### 【危機管理監】

ありがとうございました。

ただいまの内容について、ご質問等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、次に「総括コメント」、「変異株PCR検査」及び「マスクの着用」について、賀来先生お願いいたします。

#### 【賀来先生】

はい。まず「分析報告」、「繁華街滞留人口モニタリング」についてコメントさせていただき、続いて、「変異株」、「マスクの着用」について報告をさせていただきます。

まず、分析報告へのコメントですが、ただいま大曲先生・猪口先生より、感染状況・医療提供体制についてのご発言がございました。

感染状況については、ゴールデンウィーク期間中の検査数の減少、検査報告の遅延による影響もあり、7日間平均は横ばいであること。また、医療提供体制については、入院患者数

は減少傾向にあり、通常医療との両立を目指し、病床を柔軟に活用する必要があるとのこと  
です。

今後は、ゴールデンウィーク後の新規感染者数、病床使用率、重症化率等の状況を留意し、警戒を緩めることなく、基本的な感染症対策の継続、ワクチン接種の推進、医療提供体制、療養体制の充実を維持していくことが重要であるかと思われます。

続きまして、繁華街滞留人口モニタリングへのコメントです。

西田先生からは、都内繁華街の滞留人口モニタリングについてご説明がありました。夜間滞留人口は、例年同様に、ゴールデンウィーク中に減少しているものの、若年層が占める割合が増加しており、ワクチン 3 回目接種率が比較的低い若年層での感染拡大が懸念される  
とのことでした。

引き続き、基本的な感染症対策の徹底とともに、3 回目のワクチン接種を進めていくことが重要であると考えます。

続きまして、変異株について報告をいたします。

こちらのスライドは、令和 3 年 5 月以降のゲノム解析結果の推移です。

現時点での解析結果では、4 月の BA.2 系統の占める割合は 86.7%となっております。

次のスライドをお願いします。

こちらのスライドは、先ほどのグラフの内訳です。ゲノム解析の結果、都内で初めて BA.1 系統と BA.2 系統の組換え体が 6 件確認されました。

次のスライドをお願いします。

こちらは、先ほど報告いたしました、都内で新たに確認された組換え体の追加情報です。

世界各地から、オミクロン株の BA.1 系統と BA.2 系統の組換え体が報告されています。その多くは、感染性や重症度等の変化などは明らかになっておりませんが、XE のみは感染者数の増加する速度が、BA.2 系統に比べて約 10%程度高いとの報告があります。

これまで、空港検疫では、XE が 2 件、系統の分類が決定していない組換え体が 8 件。また、国内では、系統の分類が決定していない組換え体が 1 件確認されています。

一方、これまで民間検査機関でゲノム解析を行った検体のうち、BA.1 系統と BA.2 系統の組換え体である可能性があるものを、東京都健康安全研究センターで改めて解析して参りました。

その中で、3 月中旬から 4 月上旬に採取した 6 検体について、遺伝子配列の詳細な解析を実施した結果、組換え体と判定しました。

さらに、国立感染症研究所にも情報提供し、今週の月曜日に系統の分類が決定していない組換え体と判定されました。

当該者の方々はいずれも軽症で、海外とのリンクはありません。また、現在は療養解除となっております。

これまでのところ、さらなる組換え体の検出はありませんが、今後も引き続き、ゲノム解析等による新たな変異株の動向を監視していくとともに、東京 iCDC のゲノム解析チーム

でも状況を注視して参りたいと思います。

次のスライドをお願いします。

こちらは BA.2 系統に対応した変異株 PCR 検査の結果です。判定不能分を除いた BA.2 系統が占める割合は、4 月 26 日の週は 97.5% となっております。ほぼ BA.2 に置き換わっているということが言えると思います。

次のスライドをお願いします。

こちらのスライドは、変異株の置き換わりの推移を比較したグラフです。都内における感染の主体は、BA.2 系統株に置き換わったと考えられます。

東京 iCDC のゲノム解析チームでは、先ほど申し上げました組換え体を含めて、引き続き変異株の発生動向を監視して参りたいと思います。

次のスライドをお願いします。

このスライドは、参考にお示ししています。説明については省略いたします。

次のスライドをお願いいたします。

現在、マスクの着用については、様々各国によって状況が異なります。これから暑い季節を迎えるにあたり、熱中症のリスクが高まることから、マスク着用の有無が話題となっています。

こちらのスライドは参考ですが、海外におけるマスク着用の状況を示しています。

次のスライドをお願いします。

こちらは、マスク着用に関する国内における発言の要旨をまとめたものです。ご覧のように、様々な発言がありますが、マスクの正しい着用は、基本的な感染症対策として非常に有用です。

夏に向けて、感染症対策も、熱中症対策も、どちらも重要であり、感染症と熱中症の両方のリスクに備え、マスクとうまく付き合っていく必要があると考えます。

特に、子供たちのマスク着用については、屋外では熱中症の危険性も考え、周りに人がいないときには外してもよいのではないかという議論もあります。

今後、iCDC 専門家ポートの先生方とも議論し、適切なマスクの着用について、具体的な事例等も交えながら、メッセージを発信して参りたいと考えております。

私からは以上です。

#### 【危機管理監】

ありがとうございました。

ただいまの内容について、ご質問等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは最後に、会のまとめといたしまして、知事からご発言をお願いいたします。

#### 【知事】

はい。87 回目のモニタリング会議でございます。

いつものように、猪口先生、大曲先生、賀来先生、西田先生、そして上田先生、お忙しいところのご出席、また、各種分析等でお世話になっております。ありがとうございます。

今週のモニタリングの内容ですけれども、「感染状況」「医療提供体制」、引き続き「オレンジ色」ということであります。

また、新規陽性者数の状況は横ばいとなっておりますが、今回はゴールデンウィーク期間の影響を受けているということで、評価には注意が必要。

そして、入院患者数は減少傾向にあって、通常医療との両立を目指して病床を柔軟に活用する必要があると、これらのご報告をいただきました。

そして、賀来先生から、オミクロン株間の組換え体について、都内でも初めて6件確認されているということ、XEとは別の組換え体であって、詳細は、評価はまだ明らかになっていないと。また、感染された方々については、いずれも軽症、そして現在は療養解除になっているとのことであります。

そしてまた暑い季節を迎えるに当たりまして、今後、iCDCの先生方と適切なマスクの着用のあり方について議論をしていきたいというご報告をいただきました。

以上を踏まえまして、ここから皆様方へのお願いでございます。

今はリバウンド警戒期間、少しでも体調がおかしいなと感じられましたときには、出勤や登校を控えていただく、そして積極的に診療・検査医療機関を受診をしていただきたい。

また、若い世代でワクチンの3回目を接種されていない方が多いわけですが、ご自身と大切な人を守る、そして安全な社会をつくる、そのためにもぜひ接種をしていただきたいと思っております。

また、会食についても分析が行われておりましたけれども、この会食については、認証店を利用する等、引き続き基本的な感染防止対策の徹底をよろしくをお願いをしたいと思います。

以上であります。ありがとうございました。

#### 【危機管理監】

ありがとうございました。

以上で、第87回東京都新型コロナウイルス感染症モニタリング会議を終了いたします。なお、次回の会議日程については別途お知らせをしたいと思います。

ご出席ありがとうございました。